

原子力リスク研究センター (NRRC) 第 31 回 技術会議 議事録

1. 日 時 : 2020 年 9 月 7 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00
2. 場 所 : Web 会議 (電力中央研究所 原子力リスク研究センター 会議室)
3. 出席者 (順不同、敬称略)
 - 主査 : 植田 (NRRC)
 - 委員 : 牧野 (北海道電力)、多田 (金澤代理 : 東北電力)、
谷・村野・山本 (東京電力 HD)、伊原・中川・浜田 (中部電力)、
福村 (北陸電力)、宮田・吉原・岩森 (多田代理 : 関西電力)、
井田 (山本代理 : 中国電力)、渡辺 (四国電力)、本田 (九州電力)、
山口 (日本原電)、大柿 (日本原燃)、石倉 (電源開発)、
河村 (東芝)、滝井 (日立 GE)、池田 (三菱重工)、山中 (中熊代理 : 電事連)、
小澤 (電工会)、倉田 (原安進)、
高橋・古田・朝岡・西・梅木・喜多・稲田・山本 (NRRC)

4. 議事概要

(1) 2021 年度研究計画案について

○NRRC より、「2021 年度原子力リスク研究センターの研究計画案」について報告がなされた。

(2) NRRC の活動状況について

○NRRC より、活動状況として、「米国 GI プロセスの現状と国内対応の状況について」、「人間信頼性データベースの開発について」、「新・国内一般機器故障率について」、「伊方 SSHAC の結果の概要及び国内 PSHA 高度化の方針 (案)」について報告がなされた。

(主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員)

◆運転員のストレスが著しく異なる場合は再評価するということだが、その判断基準は何か。定量的なものではなく、定性的なもので判断するというのでよいか。
◇そのとおりで定性的な判断である。判断基準は、運転員の方々に「訓練時のストレスが HRA (人間信頼性解析) の結果と異なるか」を確認頂きたい。異なるということであれば、もう一度再評価をしていただきたい。

◆Regional SSHAC の中で、いわゆる共通的な領域震源の考え方や GMPE の選定など、そういったところの共通のものをそこで作ろうというイメージを持った。最終的なアウトプットで、いわゆるハザード曲線みたいなものは出てこないというイメージでいいのか。それとも何かハザード特性みたいなものが出てくるのか。
◇共通的なロジックツリーのモデルのようなものがアウトプットであり、そこまで

は作っておくべきだと考える。それを機械的に計算すれば、ハザード計算はできるが、サイトにドミナントな目の前にある活断層のロジックツリーは Region では検討しないから、それはあまり意味がないと思う。

以上